

## 災害

### 【風水害】

#### ○枕崎台風

昭和20年9月17日に現鹿児島県枕崎市に上陸した台風。藤本洋司氏の記憶に、終戦間もないころの台風で灸川があふれ、鉄道が不通になったことがあったというが、あるいはこの台風の影響かも知れない。同氏によれば当時、線路が水に浮かんだ格好になり、朝鮮からであろう引揚の人々が線路上を歩いていた。その人たちに婦人会がお茶などをふるまっていたとのこと。

#### ○ルース台風

昭和26年10月14日に鹿児島県串木野市付近に上陸した台風。余田村で死者2名を出し、農地50haが冠水した。また、余田中学校校舎の屋根が破損する被害が出たほか、住宅倒壊1棟、工場倒壊1棟。

#### ○大雨被害

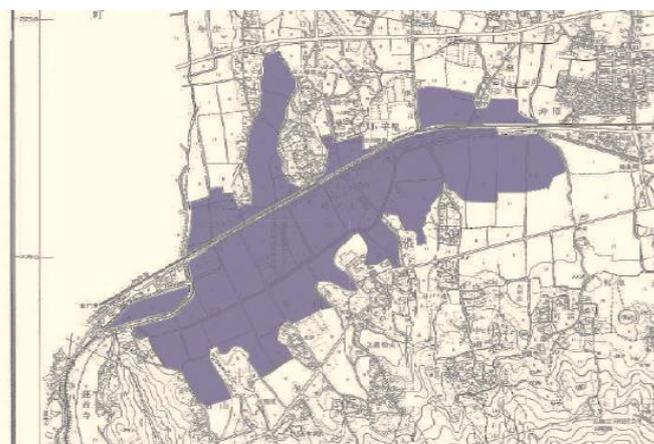
昭和55年、大雨で坂本川が決壊し、富農勢溜池の堤防がくずれ危険状態になったことが「余田だより」8月号の記事にある。この富農勢溜池堤防の改修工事は昭和57年完成し経費4千万円が費やされた。

#### ○台風19号

平成3年9月27日夕刻から襲来。全国で死者62名を出したが、余田においてもコンクリート製電柱の倒壊による死亡者が発生した。家屋被害多数。

#### ○平成17年長雨（灸川の決壊）

平成17年7月3日未明に山口県東部を発達した梅雨前線が東進し、柳井地域や周防大島地域で記録的な集中豪雨に見舞われた。柳井市内で床上浸水76棟、床下浸水752棟。このとき灸川の山陽本線より約450m北側地点（田布施町内）が決壊し、広範囲に浸水被害が発生した。



【『柳井市都市計画マスタープラン』資料編：市街地冠水状況図より一部抜粋】

### 【干ばつ被害】

○記録では、昭和14年、33年、34年、35年に発生。

#### ○昭和14年干ばつ

昭和14年7月8日付で山口県経済部長から各市町村長及び農会長あてに「本年水稻挿秧早魃ノ為メ植付不能及挿秧後ノ灌漑水補給困難ナルタメ生産ノ減退ヲ憂慮サルノ情勢ニ在ルヲ以テ」揚水機の購入を助成する通知がなされており、植え付けにもかかれぬ深刻な状況がうかがえる。助成への申込書が確認できる河添・平田・西山・小平尾・今出・保生地・堀・坂本の農事組合では、合計で、耕地面積129町2反のうち、植付不能の面積が14町、植付後に干ばつ被害にあった面積が102町4反、とある。溜池や用水路等の施設や代用作物の作付などへの助成が矢継ぎ早になされ、「今次ノ旱害ハ本県ニ於テ最モ激甚ニシテ其ノ規模ノ広大ナルコト実ニ数十年来曾テ其ノ比ヲ見サルトコロニ有之」という深刻さであった。柳井町・新庄村・余田村各町村農地委員会の協議により、収量が5割に減じた場合は小作料を2割5分程度納付とし、3割に留まれば小作料全免、収穫が皆無であったところには地主より応分の同情金を供与することを決定している。

#### ○昭和42年干ばつ

地区内の水稻作付252haの内、222haが被害を受け、35haが枯死している。市の災害対策本部も設置されボーリングポンプの購入助成など対策に追われている。小平尾簡易水道の開設もこのため行われた。



【小平尾簡易水道】

#### ○昭和53年大干ばつ

自衛隊の給水応援を仰ぐなど、柳井地方は極度の干ばつに見舞われ、広島弥栄ダムからの広域利水事業の呼び水となった。